

# 令和5年度 第5回 豊田市猿投台地域会議 会議録

開催日時	令和5年8月17日(木)	開会	閉会
		午後7時00分	午後8時20分
会場	猿投台交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：19人		
	会長：宇野 晃 副会長：近藤 鈴男		
	委員：生田 隆広	伊藤 昌明	岡本 正巳 河合 好金
	呉山 永石	清水 有樹	須藤 尊久 塚田 芳司
	塚本 政幸	中尾 秀行	丹羽 知恵子 原田 千枝美
	伴 耕治	藤中 佐織	藤井 修 本多 謙二
	山口 五郎		
欠席者	1名(伊藤 正史)		
オブザーバー	豊田市議会議長：木本文也		
傍聴者	0名		
事務局	豊田市 太田市長 地域振興部：後藤部長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、古橋主査 企画政策部：辻部長 企画課：野依課長 都市計画課：花田課長		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田市民の誓い(唱和)</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問について <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長あいさつ</li> <li>・諮問書の授受</li> <li>・諮問の概要説明(企画課、都市計画課)</li> <li>・市長との意見交換会</li> </ul> </li> <li>4. わくわく事業現場訪問について</li> <li>5. 情報共有・事務連絡</li> </ol>		

## ■議事(要約)

### 2 会長あいさつ

### 3 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問(資料1~9頁、参考資料)

#### ■市長あいさつ

第8次豊田市総合計画(以下「8総」という。)は、2017年から2024年までの8年の計画、第9次豊田市総合計画(以下「9総」という。)は、2025年から10年間の計画となる。団塊の世代が2025年までに後期高齢者入りして、超高齢社会を迎えることで不確実性が今後も増していく。民間企業でも3年程度を見据えた計画が多いと思うが、10年先を見通すというのは非常に困難な部分がある。そんな中、総合

計画をどう策定するのか。具体的な事業をどうするかではなく、その前段である施策を組み立てるに当たりどのように考えるかの議論をしている段階である。分かりにくいかもしれないが、ご意見をよろしくお願いします。

#### ■ 諮問書の授受

市長から会長に諮問書を手渡し

〈地域会議委員との写真撮影〉

#### ■ 諮問の概要説明（資料 2・3 頁）

企画課、都市計画課職員から資料に基づいて説明

#### ■ 意見交換会

（委員）

・勘八公園の整備について、その考え方が計画の中のどの部分に位置づけられるのか。

（市長）

- ・勘八公園は素案の段階であり、整備は行うことになっている。
- ・仮に公園整備をやるかやらないか判断するところから始めるとした場合、例えば、まちづくりの基本的な考え方の「あるものを生かす」という視点では、歴史もあって生かされていない典型的な場所であって、それを生かす。
- ・足し算より掛け算の思考では、行政の視点もあるが、地域課題を解決する場とするなど、色々は人たちが関わっていることで「つながり つくる 暮らし楽しむまち・とよた」になっていく。
- ・3つの変えるでは、一般的には公園を市がきれいに整備して、その後の管理も市が行うというこれまでの公園づくりを変える。これからの公園もそれでいいのかと考えると、今までのやり方では管理が追い付かずすぐに草でいっぱいになってしまうということが起きる。そこで思考や行動を変える必要がある。
- ・デジタル社会が進展する中で、公園に対する考え方が変わってくることもあり得る。これから何かやっつけていこうという上で、絶えず状況の変化を捉えて変えていくことが必要である。
- ・（仮称）ミライ実現戦略 2030 で言えば、公園が学び合いや地域共生、経済、環境、都市基盤、こどもなどすべてに関わってくる。ハード、ソフトに関わらず、これからの時代、将来世の中がどうなっていくかわからない。迷ったら立ち返る羅針盤とはそういう意味である。

（委員）

・こういう方向性を考える場合、どの自治体も共通の課題を抱えていることが多い。豊田市としては、先行している自治体や海外の事例などを考慮しているのか。

（市長）

・デジタル化の話に集中すると議論しにくいですが、それは将来変わっていく事象の一つであって、今ここでやっているのは取り巻く環境が変わった場合にも柔軟に判断できるような羅針盤を持つとうということ。

- ・実際に何をやるのかという議論をこの後に行っていくことになるが、計画に掲載されているから実施するという姿勢では、将来の時代の変化についていけない状況になりかねない。最近の時代の変化に対応できない。
- ・当面、デジタル化は市民が市役所に来なくてもよいことを目指す。そうすると事務スペースが必要なのかという議論になる。
- ・その時々にはばらばらに議論すると收拾がつかなくなる。8総はそこを目指すという地図であったが、9総では立ち戻るべき考え方を示しておく。

(委員)

- ・カーボンニュートラルを実現するには、個々の事業所がばらばらに進めても達成できない。都市計画の中でもそういったものを意識して進めてほしい。

(市長)

- ・仰るとおり、発送の転換で個々の充足・完結から「つながり・関係性の広がり・深まり」を重視するという部分では、それぞれの会社や市役所で個々がやれることをやるだけではなく、つながることで関係性の広がりを重視して、もっと良いものとするという考え方である。「ないものを補う」から「あるものを生かす」も同様にあるものを生かし合う。
- ・「足し算」から「掛け算」、どんどんいいものを合わせるよりも、掛け算方式で行うことでより良くなる。
- ・「多様な主体が楽しむまちづくり」では、行政主導ではなく、いろいろな人の知恵を集結することで実効性が高くなる。
- ・カーボンニュートラルを実現する上でも、これらの考え方が重要になる。

(委員)

- ・豊田市は、公園やこどもが遊ぶ場所が少なく、孫を連れていくところがないため、刈谷のハイウェイオアシスや半田市に行っている。交通公園はいいと思うが、こどもが喜ぶ公園、遊具、プールなどの整備に関する考え方は。

(市長)

- ・豊田市は市域が広く、こどもだけで行ける距離に施設がない。刈谷の交通公園などの施設はこどもだけで恐らく行くことができる。公園の面積だけ取れば、一人当たりの面積は豊田市も少なくない。こどもが楽しく遊べる公園というのは、今後の羅針盤の中での視点として参考にさせていただく。

(委員)

- ・市の平均年齢が45.6歳、青木町は47.5歳である。地域でも施設に入れてくてもお金がなくて入れられないなど、老々介護の問題も身近で聞くようになった。高齢者の対策をぜひ進めてほしい。

(市長)

- ・高齢者が65歳以上という定義をされたのは随分昔のことである。社会保障制度ではいまだに65歳以上が基準であるが、健康寿命の延伸などを考えれば意識として

は75歳以上に変わっていくべき。

- ・100歳まで生きること考えれば、見方を変えていかなければならない。そう考えると高齢化率は今とあまり変わらない。そういう見方が定着すれば社会も変わっていく。
- ・地域共生社会は生涯を通じて皆が自分らしく生きられるように支え合う社会である。施策としてそういったものは昔からあった。高齢者の捉え方が変わらないとそうしたものが、どんどん窮屈になっていく。
- ・高齢者の居場所作りで言えば、新たに作るのではなく地域にある自治区の区民会館を使えばいい。高齢者だけではなく子どもが集う場所として、あるものを生かすという視点でいうと区民会館が使えるのではないかと思っている。そうすることで地域のいろいろな人を巻き込んで新しいことができるのではないか。

#### **4 わくわく事業現場訪問**

- ・「勘八峡山水会 環境整備部会」、「中越戸水辺愛護会」、「アド清流愛護会」、「枝下町環境整備グループ」、「枝下用水資料室」の5団体について、それぞれ訪問した委員から報告。

#### **5 情報共有・事務連絡**

- ・地域共生社会推進全国サミットの紹介

(次回の予定)

日時：令和5年9月21日（木） 午後7時から

場所：猿投台交流館1階 多目的ホール

内容：諮問答申について